

フィリピンの神話と伝説

おわりに

3年前に「フィリピンの神話と伝説」という本を手に入れて、夏休みを利用して翻訳しましたが、その本が「第1巻」と書かれていたので、「第2巻は」と気にかけていましたが、それが昨年出版されました。インターネットで調べて、昨年の秋に手に入れました。最初のが30話。第2巻は25話ありました。

その間に、ハイスクールの生徒の副読本のような「フィリピン 神話と伝説」というペーパーバックの本に50話あるのを訳して、合計105のお話を日本語にすることができたわけです。

毎年フィリピンにワークキャンプにでかけるので、そのたびに、似たような本を手に入れ、手元には、まだ日本語になっていない5冊の本があります。しかし、それらは、これまでに訳した話のダイジェスト版のような内容だったり、逆に、詳しい研究書だったり、同じように訳す意欲は出てきません。

日本語になって出版されたものには、「フィリピンの民話」マリア・D・コロネル編 竹内一郎訳 青土社 2600円+税 1997年 というのがあります。関心のある方は、お読みください。

3冊訳してみて、いろんなことに気づきました。

まず、聖書に出てくる話に似たようなものが、まだキリスト教の伝わらない頃のフィリピンにもあった、ということ。

第2に、ハンディキャップを持っている人が、その境遇から解放されるための手段として、植物に変えられたりする話がよくでてくること。これは、社会の片隅にいる人間を、もう人間ではないものに変えることで、幸せにしようという考えでしょうが、現代の人権などの考えからすると、承服できないように思えるものです。当時の権力者の側についた、残酷なお話のように思えます。

男女の恋愛も、身分の違う者たちの出会いは、最終的には悲劇になる可能性が強いのです。そのために、いろんな植物の起源の話がくっついたりするのですが。

そんな中であって、「何故フィリピン人は平らな鼻なのか」という話とか、宗教や意見の違う部族が仲良く暮らす知恵を語った、「偉大な勇者の娘

おわりに

たち」や「ふたりの兄弟」などの話は、現代の国々や人々の争いを解決するヒントを与える知恵が含まれているようで、強い印象を受けています。

私はそろそろ、フィリピンの神話や伝説を卒業し、聖書に関連した書物、特にユダヤ人独特の、旧約聖書注解であるミドラッシュを読みたいと思っています。

1990年、エルサレムに2ヶ月滞在して、ミドラッシュに関する本を手に入れ、その後、子ども向けの本もインターネットで知り、購入したのに、そのままになっているのです。

私たちが、新しい世紀に、多くの問題を抱えて生きていることに対して、昔の人々の考えに耳を傾けて、「温故知新」。新しい示唆が与えられるのではないかと、と思っています。

パソコンで作業し、訳したら次々アップするので、変換ミスなど、いろいろ読みづらいところがあるかと思います。

どうぞ、ご指摘ください。

2008年9月10日

司祭 フランシス 小林史明